

現代につながる江戸時代の学習

山形県山形市立第十中学校 佐藤 博明

1 江戸時代の学習に開かれた多くの窓から 人物 TV 課題の共有 危機感

江戸時代には他の時代に比較して中学生が入りやすい数多くの学習の窓が開かれている。「水戸黄門」「鬼平犯科帳」「暴れん坊將軍」などの人物時代劇は人物から年表の中に切りこんでいく手がかりとして多く活用されている。たとえば鬼平と松平定信の関係や鬼平が起用された背景である天明のききんと難民の江戸流入のことなどがわかってくると長谷川平蔵という人物にひかれ、その時代に関心を持って学習に入れるようになってくる。また、江戸の市中の庶民の暮らしがわかるNHK「お江戸でござる」などは後半の解説の部分も含めて時代を生きる生活の知恵や時代考証の楽しさを体験するのに恰好の機会である。さらに、黒船来航がわが国の危機であったと感じたとき、日頃社会科に関心を持っていない子どもたちの中にも、開国についての決断に自分の考えを持とうとする様子が見られる。子どもたちを見ていると自分たちの生活の場面との課題を共有することに楽しさをおぼえたり、危機意識を持って考え、学習に入っていく様子が見える。

歴史の授業において子どもたちが学習に乗れないのは、多くの場合、学習課題が抽象概念や歴史の古さの中に埋没し、自分たちの暮らしや社会とまったく接点を感じ取れないときである。江戸時代については前の時代に比較しての平穏とその長さを強調するが故に、「長くてつまらない」という印象を持たせたり、多くの人物を登場させすぎたために子どもたちを混乱させてしまうことも多かった。そこで、江戸時代の学習に次のようなことを取り上げること考えた。

- ①江戸時代中盤以降に共通する課題
 - ②現代の社会との接点
 - ③関心が高い人物の登場
 - ④危機感を感じられる場面
- たとえば、幕政や藩政の改革についての学習は

学習指導要領では取り扱いが小さくなったが、公民的分野と関連する様々な題材を含んでいる。幕府や藩の抱えていた財政難はまさに今日的な課題であり、モラルを欠いた武士たちの引き起こす事件が民の信頼を失っていくことは毎日のニュースと重なる。それら現代との重なりに気づかせていくうえで次のような資料を用いた。

- ①宝永2年(1705)に豪商淀屋辰五郎が闕所に「ジャパクロニク 日本全史」講談社 幕府や藩の膨大な借入れについての記載がある
- ②吉宗就任時の幕府の債務
日本テレビ 知ってるつもり「徳川吉宗」
- ③上杉鷹山藩主就任時の債務
NHK 歴史発見「上杉鷹山」
②も③も番組中に当時の債務を現代の金額に置き換えているのでわかりやすい
- ④土風の頹廢 「詳説日本史研究」
笠原一男 山川出版社
- ⑤わが国の国債残高 山形県の公債

淀屋辰五郎が1705年闕所になった記事の中で、子どもたちは幕府や藩が膨大な借入れを持っていたことに驚く。それが、御三家である紀州徳川家にもそして幕府にも膨大な債務があって、その解消が政治課題になっていることを金額とともに知ったときに、幕藩体制のほころびを直感する。さらに、郷土の偉人上杉鷹山就任時の米沢藩の財政に至ると生徒もその財政課題の重さを実感することになり、存亡の危機に立たされた藩のリーダーとしての鷹山の立場を理解するようになる。ここで、現代のわが国の国債額や県の債務などを示すことで子どもたちには江戸時代の財政の逼迫と現代の日本や県の課題が重なるようになってくる。

また、川柳や狂歌などを見ながら江戸の話題となった武士の頹廢を示すエピソードなどを読んでいくうちに、子どもたちには「何か最近のニュー

ストと似ているよ」というつぶやきも出てくる。現代のわが国と共通する課題を確認したところで、次の2つの問題点についての解決法を考えることを宿題にする。

A 幕府や藩の財政を良くする方法

B 幕府や藩が信頼と権威を取り戻す方法

仲間と相談したり、調べたり、様々な方法でつけた自分の答えをB5判のレポート用紙に記入させ、それを氏名入りの一覧にして印刷して配ることで共有するようにしている（下表）。

中学生の考える幕府の改革案（2年3組）

幕府や藩(武士)の権威を取り戻す	幕府や藩の財政を立て直す (収入をふやしたり、支出を減らす工夫)
<ul style="list-style-type: none"> 江戸の町の治安をよくし、町民の生活を安定させる O子 一揆を防ぐ O美 身分を平等にする K、K美 商人の力を抑える G 農民に優しくする K美 商人に優しくする A 武士がかっこいいことをする K美 武士は怖いと思わせる T朗 身分制度を変える 土工商農 T もっと厳しくする T、K男 決まりや掟をつくる T、Y、I、U、O男 商人に掟を作る H、S太 武士に対する掟を厳しくする H村 武術を鍛える U ボーナスを与える U 幕府が武士に刀を配給 E 土地のない農民に土地を与え、信頼を得る Y野 借金しない H川 農民を働かせる T美 各地方に強い武士をおく T美 武士を侮辱したら重い罰を S祐 経済回復 S太、E美、S原 武士はまじめにさせる S木、T誠 武士にお金が入ってくるようになる S司 商人を少なくする A 商売を幕府の許可制にする A 	<ul style="list-style-type: none"> 年貢を増やす O子、T、T谷、F山 商人の力を認めを仲間にする O美、TY、T史、S原、SS木 日本らしいものを造って外国に売る K美 米の値段を上げる T 何かを開発、発明する T 貨幣を大量に発行する Y H川 商人から金を取り上げる W部 S太 社会主義国家にする(みんな一定の給料制) U 商人を弱くする E、E美 商人からの税を増やす H、SS木、A紘、A 借金帳消し H、H村、S祐、S太、S木、E美、S原、S司、A紘 小作人に新田開発をさせて土地を与える A紘 農地を増やして収入アップ! Y野 商人に一定のお金しか稼げないようにする T美 農民の借金を帳消し T誠 座のようなものを復活 A紘、A 参勤交代やめる A紘 お金を札でつくる A紘 貿易をして稼ぐ A紘 ものの値段を安くする A紘

2つの課題に素直に向かいながら、既習事項もとに徳政令に解決を見出そうとしたり、近現代の社会から考えて身分制度の解体をあげる者もいる。

これらの学習活動の後に吉宗、田沼、松平定信、水野忠邦、そして上杉鷹山の改革についてVTRなどを用いて全体で学習し(3.5時間)、さらに自分が関心を持った改革についての学習を促すと、短いレポートの中に、子どもたちのそれぞれの改革に対する思考や判断を読みとることができる。「幕府の敵ともいえる商人を倒そうとせず逆になにその力を利用して幕府の財政を直そうとしていてうまいやり方だと思った。天明のききんや浅間山

のふん火などがなく、役人のワイロをもう少しきびしくとりしまっていたらこの人の改革もうまくいったのではないかと思う。」男子

「武士の時代に聖徳太子がやったように才能や手柄に応じて位を授けるようなことを江戸時代という荒い政治のなかでやったことをとても印象的に思った。きびしい時代に才能を重視したことはとてもいいことだと思う。また、給料が規準になっしない不足分を支給したところもなるほどなと思いました。」女子

「僕が考えたことを江戸時代の老中(水野忠邦)も同じく考えていてびっくりした。江戸時代の老中も今の僕たちも同じ問題を考えていたことがわかった。また、6組の人たちが僕たちのクラスより考えが豊富で驚きました。」男子

全員とはいえないが、多くの子どもたちは当時幕府や藩が抱えていた危機や課題を自分のものとしてとらえることができています。答えを見出そうとしながら先人の知恵に感心し、それを批判、修正する力を身につけようとしていることがわかる。

2 おわりに

「社会科が苦手だ。歴史が覚えられない」という子どもたちだが、教師が視点を変えていくことにより、歴史の中で考えようと変わっていく子どもたちの可能性を実感している。

幕府や藩の中にあって危機とたたかっていた吉宗らの姿を感じることができたとき、子どもたちの学習は開国から維新の歴史の中で再構築され、国家の危機として様々な場面で考えようとした人々の生き方に感動し、彼らの生き方に対する考えを子どもたちが持つことができるのではないかと考えている。さらに時代の進行につれて触れざるを得ないいくつもの国際平和や民主主義の危機の場面を、子どもたちが自分の課題としてとらえることができるようになることは、社会科の教師としての願いである。そのためには当然、近世や近代の中で民衆の立場をはじめ、近隣諸国など様々な立場からも歴史を問直す場面を設定することが必要だと考えている。